

働く人にもっとも身近で信頼される〈静岡ろうきん〉であるために、福祉金融機関としての『真価』の発揮に取り組みます。



平素より、私ども静岡県労働金庫をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

当金庫の事業の状況をご案内するため、ディスクロージャー誌「静岡ろうきんの現況2018」を作成いたしました。多くの皆さまにご覧いただき、当金庫に対するご理解を一層深めていただければ幸いです。

2017年度は第2期中期計画（2015年度～2017年度）『TRY』の最終年度であり、スタート時に3年後の姿に掲げた「働く人としっかり向き合い、信頼され、選択される〈静岡ろうきん〉」を道標として、評価指標に掲げた数値目標の完遂に向け、会員・運営委員会と一体となって着実に歩みを進めてきました。その結果、2017年度および中期計画『TRY』を大きな成果で締めくることができました。これもひとえに皆さまのご理解とご協力によるものであり、あらためて感謝申し上げます。

さて、金融機関を取り巻く環境は、人口減少や高齢化の進展により個人消費市場は縮小し、金融機関の競争は一層厳しさを増すという見通しから、県内の金融機関においては、事業基盤や領域の拡大を目的に合併や業務提携の動きが進んでいます。

また、FinTechに総称される金融IT化の波が日々勢いを増すなど、金融機関の業務は大きな変革の時を迎えています。こうした時だからこそ、働く人の目線で生活に役立つ金融商品やサービスの提供、働く人たちとのつながりを大切にした相談対応などがますます求められていると認識します。〈静岡ろうきん〉は創立の原点を踏まえ、時代の変化に積極的に対応し、働く人の多様なニーズに応え得る経営基盤の構築に向け、さらなる改革を進めていきます。

2018年度からは第2期中期計画『TRY』で推し進めてきた経営改革を礎として、「運動・利用の深化」と「生産性と職員力、経営基盤強化による進化」により、働く人の生活向上に資する第3期中期計画『真価』がスタートしました。変革の時を前にして、まさに真の価値が問われる3か年となります。〈静岡ろうきん〉は働く人とその家族の“笑顔”のために真価を発揮してまいります。

今後も変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2018年7月

理事長

古川 正明